





武王門廿篇



宝曆二年秋改正點譜

不騫不萌

廿五點

胸裏三斗

廿五點

清地滿夏雲

十五點

玉堂之用

十五點

昂里墨候

十五點

結隣

十五點

雁字

十五點

七

二

四時菴紀逸



清地滿夏雲

荷 ちあるの葉いよまき天の

口 ちあるの葉いよまき天の

立 ちあるの葉いよまき天の

福 ちあるの葉いよまき天の

上 ちあるの葉いよまき天の

女 ちあるの葉いよまき天の

つ ちあるの葉いよまき天の

客 ちあるの葉いよまき天の

古 ちあるの葉いよまき天の

中 ちあるの葉いよまき天の

草 ちあるの葉いよまき天の

の ちあるの葉いよまき天の

中 ちあるの葉いよまき天の

格 ちあるの葉いよまき天の

新——さく買ちまぬ
三のい約こまつち明と譯し
叶の居押しくらうか人の
下子の句へ六力月の宮
なまの樽を入る見
世の中二つ叶へ二ツ音
かこの只いへてく有心
か下りてこ宮後
汁とさへし梅きこ
十のわとゆといふの夜
能をなぬもくといま
花のり 花のり 花のり
この花のりは二代
の

辻秀ち五のありる小侍
酒言の身と宮中く鏡の声
さうえんうりち行とぶら
信奥いりる由あぬいり
トケいせらるのあし限
あしらのし ちちりら
雅の死しよまやうな 年
本橋の里も續く百の夜
つま賢と切しおのしつ
況はいま鏡とさうとあ
あまの座と海島との
相立のまち名月
く——いりて
いとこといりる
新千の智あつていりる
かあといりる

女の声は低いを原
さしおらうらぬのいぬ多
傳と傳い来るの如く
焼打くくくる青きまの
世に小學破くくくく
野のもといくあるは
向力る氣名にむく
めち子降いむくく
たま一歌ももくく
代りりりりりりりり
兼ぬしぬの紫い
らくくくくくくく
神の名は書十
日くくくくくくく
ろくくくくくくく

お牛の清水髪
ぬめりやうらぬのいぬ多
上るくくくくくく
握くくくくくく
うくくくくくく
衣くくくくくく
備くくくくくく
まきくくくくく
ふくくくくく
標掃の骨け
る回わくくく
の後くくく
え上はくく
恒向くの穴と
賢全くく
修持のぬき

下、極端、~~...~~情、

越、法、~~...~~情、

暮、の、言、~~...~~情、

花、~~...~~情、

た、~~...~~情、

た、~~...~~情、

我、~~...~~情、

白、~~...~~情、

ま、~~...~~情、

ま、~~...~~情、

ま、~~...~~情、

ま、~~...~~情、

ま、~~...~~情、

ま、~~...~~情、

ま、~~...~~情、

ま、~~...~~情、

ま、~~...~~情、

ま、~~...~~情、

ま、~~...~~情、

ま、~~...~~情、

ま、~~...~~情、

ま、~~...~~情、

ま、~~...~~情、

ま、~~...~~情、

ま、~~...~~情、

ま、~~...~~情、

ま、~~...~~情、

ま、~~...~~情、

ま、~~...~~情、

ま、~~...~~情、

ま、~~...~~情、

ま、~~...~~情、

きさの跡をせりゆき赤鶴
たもよ風形のさる目も厚
きさのつるの息（日かすに
ういゆいうつしむらね白服令
小あ訪も夜と身り又ハ
さりくスリりて夜の大い
さるり入中村のさる丸も傷
清快とあしそとの火とさいぬ
面白くあしそと鑑ととるあ

すももさるさしむらとあさ
秋のむら（あさしむら）
く年さしむらとあさ
冬人しむらさしむらとあさ
さるすりあしむらとあさ
相違の向後まな排の交
あしむらとあさむらとあさ

あさしむらとあさむらとあさ
さるすりあしむらとあさ
相違の向後まな排の交
あしむらとあさむらとあさ
すももさるさしむらとあさ
秋のむら（あさしむら）
く年さしむらとあさ
冬人しむらさしむらとあさ

あさしむらとあさむらとあさ
さるすりあしむらとあさ
相違の向後まな排の交
あしむらとあさむらとあさ
すももさるさしむらとあさ
秋のむら（あさしむら）
く年さしむらとあさ
冬人しむらさしむらとあさ

葦原の一好後、天の命

の命の年、お清し、お

山師のま、お初、お

お清のね、お清の毒

清し、お清、お清

富、お清、お清、お清

お清、お清、お清、お清

お清、お清、お清、お清

お清、お清、お清、お清

お清、お清、お清、お清

お清、お清、お清、お清

お清、お清、お清、お清

お清、お清、お清、お清

お清、お清、お清、お清

お清、お清、お清、お清

お清、お清、お清、お清

夫つと出らぬ女房、怖くぬ

お清、お清、お清、お清

お清、お清、お清、お清

お清、お清、お清、お清

お清、お清、お清、お清

お清、お清、お清、お清

お清、お清、お清、お清

お清、お清、お清、お清

お清、お清、お清、お清

お清、お清、お清、お清

お清、お清、お清、お清

お清、お清、お清、お清

お清、お清、お清、お清

お清、お清、お清、お清

お清、お清、お清、お清

お清、お清、お清、お清

坐臥と書せし行はつゝくさ士
ニワたしてちりていふ事あり
とがらぶの中ちまじくし爲り
狸の群せぬとあり
龍はのちけに染の大ニ麻
糸つはぬい糸しゝ病あり
母祝とあてていふ事あり
刻 孫ちあんと女房あつて
小男とよまら目かく 鼻
つゝわとむお所もいふ事あり
地女のちあやゝ眼いこき
空見拂がふしゝ病あり
日の車のはのよゝ元母い小キ
あのかつゝいゝの浪人
夜と書しゝ病あり
あつゝいゝ病あり

中々と書せし病あり
例 一 昔かゝる病あり
松崎と書しゝ病あり
日のおくゝと書しゝ病あり
病ありと書しゝ病あり
麻衣と書しゝ病あり
娘と書しゝ病あり
ト書しゝ病あり
以と書しゝ病あり
やと書しゝ病あり
半と書しゝ病あり
あつゝいゝ病あり
過と書しゝ病あり
堀身と書しゝ病あり
怪業と書しゝ病あり
あつゝいゝ病あり

女房に泣きお帯とせりと母
こがすのて指おのあなむいり
うらりのおとよふとてうら道
ねしぬ家ののじりうら
おれと風おらる林も
ちんらんしき音あふり
ねの音あふせしき
田の娘まはりの娘女も
一ま年のまの身の時と
おのまるとしるおと
ちかおのまのり
入るるしき
冬保りしおのま
あつらひしき
いれぬのしせる身

おとよふのて指おのあなむいり
うらりのおとよふとてうら道
ねしぬ家ののじりうら
おれと風おらる林も
ちんらんしき音あふり
ねの音あふせしき
田の娘まはりの娘女も
一ま年のまの身の時と
おのまるとしるおと
ちかおのまのり
入るるしき
冬保りしおのま
あつらひしき
いれぬのしせる身

くときしし日のあけ

まのねのまの三味線
いせ山女房名角しき
おぼろの座の座とせ

刈の沈と母の怖る福井

一いつついのうとあるおれ

あふしおせん招きへる

おちおちとあつとあつと

あきしめとあつとあつと

あつとあつとあつとあつと

あつとあつとあつとあつと

あつとあつとあつとあつと

あつとあつとあつとあつと

あつとあつとあつとあつと

あつとあつとあつとあつと

あつとあつとあつとあつと

あつとあつとあつとあつと

あつとあつとあつとあつと

あつとあつとあつとあつと

あつとあつとあつとあつと

あつとあつとあつとあつと

あつとあつとあつとあつと

あつとあつとあつとあつと

あつとあつとあつとあつと

あつとあつとあつとあつと

あつとあつとあつとあつと

あつとあつとあつとあつと

あつとあつとあつとあつと

つらと新の海にたのろを
くちけしとつるんとせし斗
ちの形もあはれあつりや
海鳥のつらもあつりや
早つりけしとつるんとせし斗
つらと新の海にたのろを

胸裏三計

た板あはれとつるんとせし斗
二十のまじりてつるんとせし斗
必のまじりてつるんとせし斗
るまのまじりてつるんとせし斗
大まのまじりてつるんとせし斗
海鳥のつらもあつりや

つらと新の海にたのろを
くちけしとつるんとせし斗
ちの形もあはれあつりや
海鳥のつらもあつりや
早つりけしとつるんとせし斗
つらと新の海にたのろを

新下新香の馬工年
 女はし二百十日の鶴の
 物主の約くとれ
 物根の夜をとりく
 瑞の夜のつは力長
 深二つあるつり
 心言うれい
 子へ務と信り誓月の巻お
 歩交と云ふ事
 物根のつら
 舞ぬほつ二つあり
 道と名のつら
 ちまのつら
 道ちまのつら
 芳子供の中へ居ほぐ
 筆と信り

鶴のつら

月とあつと
 所このつら
 房新のつら
 つら
 秋のつら
 結尾のつら
 波居のつら
 輝輝のつら
 戸のつら
 の名みのつら
 中とやまのつら
 橋とつら
 小夜衣とつら

二階の月と紅白く呼

ねえくくはは(はは)ゆき川

子左の雲のうとけり言

面白いのやういふ事ある

はははははははははははは

座敷の汁の汁の汁の汁

派代の子の男もまきつ

も情の伝又のるゆゆん

かのかかかんかかかか

も夜の堂敷を新し弾

席の古懐々言(元と明)

清く身し物もあはははは

也人の気持えの言と呼

の代の欠と(井)ははは

我思言(い)有はははは

きりくわのそまのぬき座程

赤あついでしむてん(の)る青

を(一)ははとま(り)さ(り)あ

いからぬ丸の吹もり御訓松

角えまきこ(ゆ)ま(る)の上

たまもあし三寸は(古)

末(一)か(し)ち(あ)る(あ)の(毫)

字(一)は(は)は(は)は(は)は(は)

新造と三夜起(り)は(は)は

じ(一)は(は)は(は)は(は)は(は)

は(は)は(は)は(は)は(は)は(は)

二階の身(い)は(は)は(は)

御前の御(ま)は(は)は(は)

春(一)は(は)は(は)は(は)は(は)

懐(一)は(は)は(は)は(は)は(は)

京(一)は(は)は(は)は(は)は(は)

海(一)は(は)は(は)は(は)は(は)

坐以のまろ一筋
るまとカカと極
け碎の枝しり
は草の足るん生約上
草下も明る井の清い
うありをくらげ衣も
海田のぬちおれ出
る護屋の社へ死
女房もせしと流るる
し居の院の仲る死
流坊もさ身代と
かちち平井の横只
凡とついで一
名早もせしと甲の子
思くぬ行都へ
母の味とささし

牡丹候も名更の
初と代よの真い
眼ちつと並へ紙の
映く三十河下
貝と壳一海を
ゆとつめくさ
まもとま目と
さかしたるて
く右の
中し
比久
云
ら
三
四

人形もあま 三人
二か傍のうらと都鳥の
わすれくま解く布の重さ
痛みの重への思ふも 淡
と痒とよりうらや年の油
衣くの袖のこまぬる汐子
骨痛し三味線よりよめも
口のふくしてま吉田島
富乃座の史をよみ死無
さるるまを食のぬるうら
ふとん 湯絶ゆ女の巻
じうととのせも出れし十
一生あま苦しむる下判
路の類と極る色
八代の子に恨くまへる
つらなる位しぬあのかう

おと 鳴んし村のほや
思ふ日おれし見友たの凡
橋とまの 六因とぬり
忘れぬ物の海らうい
細えい十秋葉いま下
八代の子に母のあは初名
おれせもあまこつうと
意しきいおし暇の立
雁の夜よ魚のちん
二か及まゆの包ら
まあやと賣くあし
はるあしとぬら
じとよら十太きとス
名代ととあまく納
けるすしとぬら
かすし平抱丸つ

情 ことさるるやむいそとの美

通 事後の暇を平 版

やこゆるまど海までとる

せつこいばまに於小舟

娘のゑふ一河、山並

つらつと却比のしるゝ

し平 交りぬと賞一もある市

節しれあまかたの綴り航

ぬの唄し習廿八有集り

花柳のののよりの飛鳥

花柳の元々つんあし病

ののほくぬ友の仕立屋

活々ぬまところりもぬち

新つきたれのゆらえ日

三月のりさくくあり良

宿帳とこれかほの縁交

云 素と隣り一果る大附り

ぼろちと一飲うんのの候

ぬりぬるるともいぬもた

何下の極ふし一(市)

きりぬるりあは

死にけぬぬとさしぬ

床柱のたのらぬい三月

んぞ中絶すありの綿

ぬのばんしん一立のぬい

早月の雲不ぬ心まきえ

汁一ぬの月とけいさる杜ろ

吾じぬちぬ白入し舞の全

元女し流塔とてせり不流

起し出るぬのぬら大りこ

またぬらるまけり乾く今

千も笑とれきりぬ

ねまよと登こし藤ともめ
 し秘身し瓜も油とよく
 白と黒いしらけの家とゆ守
 富の顔と白く名し白
 しりりくあは体の裳は
 大根まきくしのゆも怪く水
 の方のぬの上うんととぬ
 大仏の魚とこぞいぶらぬ
 権切あゆみ深の漏ま
 蕨はうまうし掙の明くま
 ちりりららちりりし入深し
 ちりりし〜雑考より見る四十三
 いりりし〜くしまは権神
 ありりのりゆかりは終り
 くのらとせら〜きふち打ち
 記をふて〜ふとぬし

及藤ともり女の鼻くあり
 時が〜しりぬことせむる花
 し〜と〜は〜心〜年の本懐
 小判の足のとす
 乙乙ちちちの福身の要
 ね〜こと〜す〜尾の印
 女房のたんと身と賣る餅
 初泊ま〜ぬる〜初〜る
 山伏い〜り〜せん〜ゆ
 野り〜し〜し〜色も結い
 ち〜し〜の招も初のも
 比直危の化務〜花〜し
 衣あ〜ち〜あ〜知と〜し〜し
 が〜わ〜ち〜あ〜し〜は〜味丸
 の〜し〜し〜し〜し〜し〜し
 ねちあ〜の〜き〜は〜し〜し
 ねちあ〜の〜き〜は〜し〜し

一 百八十八の月夜もいかに
遅くもなるぬの怪の呪
白糸の白の夜に寝てはむね
行立のうねいよふへく焼く死
やま作のむねの首強り
也悟りの気う一足して土國と
け下のまねを長くとりま
布しく作走のへと吐り
笑もへく二階とりのむね
うんげんげんげんげんげん
並切しついでにやあつ出る
あやと何の事あつる活字
小糸九代信まづらあり
おしこまへ日のちるい月
場いかに年とこのひし
矢張りの事なげしむり

り夫 勢乃 ぬの木よ在
有石の河のやのし
遠きかのまねのち
あふくくは月
いふのいし子のたむら
さく夜史胡かやあふ
たの良侍の剣ち
わがは野の身くし海の鬼
二とてうくく同
培史と下帯たむのり
天のけいけくもくの
初なるのちの同の
府信とこのと

名と進... 年
あ...
六...
あ...
ち...
出...

不塞不萌

并の手...
代...
大...
あ...
七...
う...

お...
る...
者...

寛政三十四年四月

撰...
庶...
柳...
凡...
新...
吾...
た...
奥...
一...
あ...

也又高のし能海の原の侍の禪小
情もつとつる為の教のんが平
けけいあるとつる世の原小の
しはつる句の高小のた
古も地も是の身も与次の意
のしを判名の好所小依し
師のあつるつる美生堂の
案のり下齋小のあつるまど
社とつるの甲し大代原の

右原点酒友の友とまのせり
牙集の津換とつる
有伏、師小のあつる世の深下
青上、母親の具とつる初し
赤江山のつる今つる 家

米仲、夕紅と孫の上つる子名教
光危下、の光り上 卜
祇正、夜守小夜入道の樹つる
水、のまづつる日づるいづる
貫明、教道名の十層小のあつる
仲人、心小のつるつる佛
横川、海舟小のあつる清の
扇つ、つる小のつるつる
渭水、越つるつるつるつる
石、莫し質斗目四月朔日
湖十、押のつるつるつる
窟は、あつるつるつるつる
台原、一曰つるつるつる
大位、のつるつるつるつる
再、大とつるつるつるつる
侍、のつるつるつるつる

海本点、和泉式部のつづり物云
衣巻、衣の裏と云ふて
可立、風の極あまの西の風
没と云ふ身し大福と云
起高、物牛、遠くは物と云
角、くさくさ、糸の、立夜、
美億、物子、小と云、切、水、
一、夜、別、事、不、同、之、因、丙
吉門、此の面、此の面、此の面、
兼、て、此、の、人、の、後、平
嘉延、此の、約束、此の、
し、せ、く、此、の、
物、指、此、の、
貸、金、年、の、二、
書、永、此、の、
世、此、の、

雑口、此の、
長、多、の、口、
柳、尾、連、
竹、尾、連、
庭、巻、女、の、
毛、巾、是、け、
由、林、萩、の、
祇、念、使、り、
清、泉、屋、
世、
田、社、
抱、小、
春、来、
人、

室曆戌十月松田軒一屋清衛板



